

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	川崎西部地域療育センター児童発達支援センター		公表日 8年3月24日			
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	13	7	クラス内の活動だけではなく、館内の別の活動場所に移動してプログラムを行っている	保護者がクラスに全員入ると、圧迫感がある状況になってしまうこと
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	13	7	こどもの状況に応じて、フリー職員が柔軟にクラスに入れる職員体制を作っている	クラス担任とフリー職員が短時間で情報共有しながら支援を行えるようにしていく
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	19	1	運動障害児クラスは1Fに設置し、活動内容により2Fに移動して活動するなど、障害特性に応じた環境整備を行っている	子どもの実態と変化に合わせて、レイアウトの見直しを柔軟に行う
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	19	1	日頃の館内の状況や定期清掃について、毎朝の打ち合わせで情報共有している	こども達の興味関心、遊びの変化に対応して遊具の設定などを変化させていく
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	20	0	使用予定があったとしても、こどもの状況によっては予定を変更して対応している	予定通りに部屋が使用できない場合のプログラムも日頃から用意しておく
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	17	3	毎朝の打ち合わせに加えて、リーダー会議、通園課会議などで改善策を検討している	短時間勤務の非常勤職員との情報共有がタイムリーにできない状況がある
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	18	2	保護者アンケートを必ず実施し、業務改善に向けた話し合いを行い、保護者に検討結果を文書で報告している	アンケートで表出されていない保護者の声にも耳を傾け、丁寧な説明を心掛ける
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	15	5	意見募集アンケート、職員会議が定例で行われ、改善点を職員間で検討している	さらに検討が必要な課題は検討チームを作り掘り下げて検討していく
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	18	2	第三者委員の方へアンケート結果・要望などを伝え、客観的な意見をいただいている	タイムリーに評価結果を伝える機会を作っていく
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	20	0	職員アンケートからニーズの高い内容の研修を年間で計画し定期的に実施している	新人職員など経験の浅い職員からのフィードバックをもらいながら計画を作成する
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	18	2	館内にも掲示して、保護者に周知している	支援プログラムの内容が十分に保護者に伝わっていない面もある
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、個別支援計画を作成しているか。	19	1	アセスメントシートを活用するとともに、インフォーマルな評価を複数の職員で共有しながら支援計画を作成している	経験値の浅い職員を含めて、共通の評価視点で作成できるような仕組み作りをさらにすすめる
	13	個別支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	19	1	クラスの担当者間で個々の状態を丁寧に話し合い、主任、園長もアドバイスをを行っている	将来的な姿もさらにイメージしながら、こどものニーズを捉えるていく知識・技術を高めしていく
	14	個別支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	19	1	特に全職員間で対応を共有すべきことは朝のミーティングで情報を共有している	目標に対する振り返りと改善すべきことの検討をタイムリーに行う
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	17	3	課題分析の研修を新人研修のテーマにするなど、職員間で共通の評価の視点を持てるような組織作りを行っている	必要な支援方法や実態に合わせた目標設定の見直しも適宜行っていく
	16	個別支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	20	0	ガイドラインに沿った視点でバランスの取れた支援を展開するように努めている 具体的な支援内容が明確になる表現を心がけ支援計画を作成している	こどもの将来の姿をイメージした中での、今必要な支援を考えられるようにさらに研鑽を積んでいく
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	18	2	ミーティングで丁寧に話し合い立案し、プログラム内容についてクラス間で共有している	様々な視点からプログラムを立案できるようにクラス担任と児発管がさらに連携していく
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	17	3	年間計画の中で季節のイベントに応じた活動や運動プログラムなど組み合わせている	活動のバリエーションを増やすことと活動の意味を丁寧に保護者に説明していくこと
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる個別支援計画を作成し、支援が行われているか。	19	1	職員の動きも構造化を図りながら、個別活動を行える時間を増やしている	様々な個別活動を提供していくための職員の知識・スキルアップを図る
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	18	2	前日と当日の朝に職員間で打ち合わせを行い、各職員の役割を確認し、職員の動きも構造化している	中堅・若手の職員間での判断、主体的な動きがさらにできるチーム作りをすすめる
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	18	2	振り返りのミーティングで次回の改善点を確認し、準備に活かすようにしている	ポイントを押さえた効率的・効果的なミーティングを行えるようなスキルを高めていく
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	19	1	支援目標に対して、対応と結果が端的に記入できるような記録フォームも利用している	対応方法のアイデアを職員間で共有し、支援のバリエーションを増やしていく
	23	定期的モニタリングを行い、個別支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	18	2	支援に関わる複数の職員で見直しの必要性を検討している	目標の見直しだけではなく、日々のこどもの変化に応じた対応方法を柔軟に見直ししていく
24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	17	1	支援に直接関わるクラスの担任職員が参画するように調整している		
25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	16	2	地域の小学校教員向けに「公開療育・公開講座」企画し、療育活動を理解してもらい連携を図る機会としている	地域の児童発達支援事業所との情報交換、見学受け入れなど、連携を密にしている	
26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	16	2	併行通園先に職員が訪問したり、地域の機関からの見学を積極的に受け入れている。担当者間での支援内容について、電話対応も含めて連携している	地域の園、学校の保育・教育についての理解をさらに深めながらプログラム作りをすすめていく	

関係機関や保護者との連携	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	17	1	①教員の療育センター見学②通園療育報告書③職員の学校訪問(入学後)を行い引継ぎを充実させている	
	28	(28~30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	16	2	児童発達支援事業所職員向けに「地域講座」を開催し、療育活動の内容の講義、指導室を見学する機会を作っている	ケースカンファランスなどを通じて、支援内容の共有を図っていく
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	15	3	近隣の自治体の療育機関に積極的に研修見学に出向き、最新の療育システムを学ぶようにしている	多くの職員が外部研修などに参加して、研鑽を積めるように年間計画を作成していく
	30	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	10	8		日程調整を工夫しながら、地域の関係者との会議に積極的に参加できるようにする
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	-	-		
	32	保育所や認定子ども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	4	14	こども同士が交流する機会は少ないが、子ども集団のなかでの適切な過ごし方について保護者にアドバイスしている	併行通園児が多数を占めている状況から日頃、地域の集団の中で過ごす経験をしている
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	17	1	単独通園クラスにおいても、親子登園日を企画したり、家庭での困り感を共有する機会を作っている	療育指導中に十分に相談の時間を作りにくい面もあるため、計画的に伝え合える場面を設定するなどの工夫が必要
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	16	2	保護者学習会を年間で計画し、子どもの特性を理解していくためのプログラムを実施している	具体的な対応方法の情報を提供できる研修をさらに増やしていく	
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	19	1	利用者負担について別紙で具体例を示しながら説明を行っている	運営規定、支援プログラムの内容をわかりやすく重要事項説明会で案内する
	36	個別支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	20	0	保護者の要望を聞き取る用紙を用意し、全利用者から書面で意向を確認している	将来的な姿もさらにイメージしながら、最善の利益を保護者と共有し現在の目標を立てていく
	37	「個別支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から個別支援計画の同意を得ているか。	20	0	必ず面談を行い、支援内容について具体的な説明を行った上で同意のサインをいただいている	保護者が積極的に参画してもらえるような支援内容とその説明を丁寧に行う
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	19	1	面談だけではなく、電話での対応を含めて、タイムリーに助言を行える方法で支援している	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	18	2	父母の会活動の担当者を配置し、保護者同士の交流会等を共に企画、運営するなど保護者会活動が活発化するように支援している	きょうだい児への直接支援は、できていないが、土曜日の行事にきょうだい児を含めた家族参加プログラムを企画しているので、周知の仕方を工夫していく
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	19	1	すぐに上司にも報告、共有する仕組みになっており、組織的に対応している	いつでも相談の受付ができることも丁寧に周知していく
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	16	4	連絡アプリを導入し、活動予定だけではなく、緊急連絡などをメールで送れるシステムを活用している	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	19	1	年度当初に個人情報の取り扱いに関する研修を行い、管理体制について全職員で共有している	様々な職員がイレギュラーな形で取り扱う場面も想定されるので、基本を徹底していく
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	20	0	献立表をメールでの配信だけではなく、紙面でも見れるようにしている	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	12	8	川崎市と連携し、館内にいろいろな人の声を届ける展示コーナーを設置している	
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	19	1	年度当初に事故防止マニュアル、緊急時対応に関する研修を行い、全職員で共有する機会を設定している	保護者へのわかりやすく周知していくこと、定期的に必要な見直しを行うようにする
	46	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	18	2	月1回定期的に訓練を行い、地震、施設火災、近隣住宅火災など、様々な想定をした訓練計画を立て、実施している	訓練がパターン化しないように、各職員が災害時に状況判断し行動できるような訓練にしている
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	18	2	入園前にアンケートを実施し、アレルギーも含めて安全に療育活動を行えるように情報を正確に把握している	担当職種間で情報を早い段階で共有していくシステムにする
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	20	0	対象児については、主治医の意見書を提出していただき、指示に基づき安全な対応を行っている	日々の提供についても、対応職員が不規則にならざるを得ない場面は特に細心の注意を払う
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	18	2	安全計画のもとに年間計画を作成し、研修訓練を行い、安全な療育活動に努めている	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	18	2	館内に安全計画を掲示して、誰でも目にするようにしている	毎月の避難訓練などで定期的に緊急時の対応などを周知していく
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	19	1	事故・ヒヤリハット報告書を作成し、所内の主任会議で共有後、各課で共有し、再発防止策について検討・確認している	ミス、事故が起りやすい事案、状況については定期的に確認していくようにする
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	20	0	日頃から「気になること」は伝え合うことを大事にできる職場作りをしている	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、個別支援計画に記載しているか。	19	1	身体拘束適正化委員会において、状況を確認した上で組織的に決定し、個別支援計画書に記載している	やむを得ないことが当たり前にならないように定期的なチェックを繰り返していく